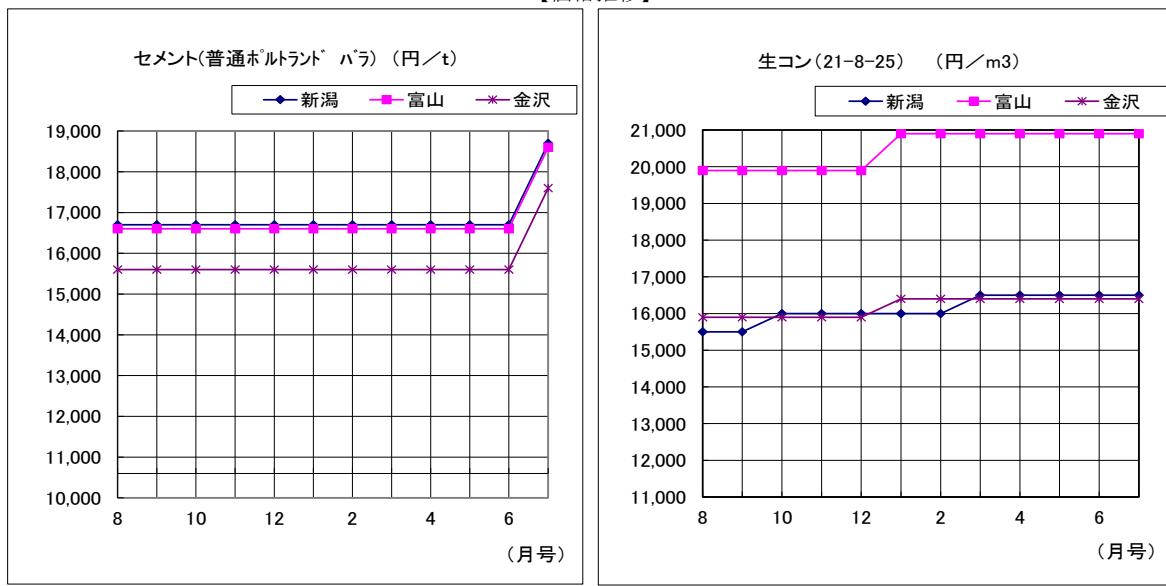


5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品目	4~6月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>全地区、値上げ交渉が決着</p> <p>【新潟県】セメントメーカー各社は、物流や設備投資にかかるコスト上昇を理由に、2025年4月よりt当たり2,000円程度の値上げを表明。販売側の強気の姿勢に対し、大口需要者である生コンメーカーは抵抗を示すも、セメント値上げを想定した生コン価格の改定を実施していることや購入先が限定されることから、やむなく値上げを受け入れた結果、6月にt当たり2,000円の上伸に至った。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】主要セメントメーカーは、2025年4月より輸送コストや工場設備の維持修繕費用の高騰を背景にt当たり2,000円程度の値上げを表明。需要者側は、大幅な値上げに対し反発を見せていましたが、コストの高騰から採算悪化を危惧するメーカー各社の売り腰は強く、緩みを見せることなく交渉を進めた。結果、需要者側は交渉材料を得ることが困難となり、値上げを受け入れざるを得ない状況となつたことで、市況は6月にt当たり2,000円上伸した。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】販売側は、物流や工場設備の維持補修などに要するコスト増を背景に、2025年4月出荷分よりt当たり2,000円程度の値上げを求め需要者と交渉を図った。需要者側は大幅な値上げに対し難色を示したもの、供給元が限られることから交渉材料に乏しく、同時期に各地域の生コン協組がセメント価格の上昇を要因とした生コン価格の引上げを実施していることもあり、やむなく値上げを受け入れた。これにより市況は6月にt当たり2,000円上伸した。先行き、横ばいの見通し。</p>	(バラ物) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
生コンクリート	<p>全県で交渉姿勢が強まる</p> <p>【新潟県】新潟生コン協組では、セメント・骨材などの値上げを背景に2025年4月からm3当たり2,000円の値上げを実施し、交渉を継続している。協組側は、2025年6月に有力な員会社を組合に加盟させるなど組合組成率の向上を行っており、売り腰を強めている。需要者側は、度重なる値上げに対して当初は抵抗を示していたものの、市況改善への活動に一定の理解を示す姿勢を見せつつある。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】各生コン協組は、原材料であるセメントが2025年4月より値上げとなる見込みであったことから、同年4月よりm3当たり2,000円の値上げを打ち出し、需要者へ理解を求めている。新川地区では、非組合員が存在しない状況下でまとまった量の出荷が見られ、新価格での交渉が進展しつつあり、先行きは強含み。他地区においては、荷動きは精彩を欠く状況で、需要者側との交渉が本格化するにはしばらく時間を要す見通し。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】2025年4月より、県内各地域の生コン協組はm3当たり2,500円～3,500円の値上げを求め需要者側と交渉を図っている。セメントや骨材などの原材料コスト上昇を販価に転嫁すべく、販売側は売り腰を強めている。春先は小口需要が中心となっており新価格の浸透は一部に留まっているものの、今後荷動きが増加するにつれ新価格は徐々に浸透するものと見られる。先行き、強含みの見通し。</p>	(21-8-25) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
骨材	<p>能登方面は継続して強気の交渉姿勢</p> <p>【新潟県】路盤材メーカー各社は、出荷量の低迷および製造コストの上昇を理由に、2025年4月よりm3当たり500円の値上げを表明している。しかしながら、新潟地区では需要の低迷が続く中、需要者側の購買姿勢は厳しく、交渉に進展はみられない。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山県骨材販売協同組合では、路盤材をはじめとする組合取り扱い製品に対し、運搬費や採取地開発費用上昇分のコスト転嫁を唱える組合員が一部でみられる。しかし、2024年度までに3年連続の値上げを打ち出してきたことで、需要者からの反発が強まっている状況を踏まえ、組合側は2025年度については現行価格の維持および安定供給に注力し、価格改定は次年度を見据えて検討を進める構えを見せている。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】路盤材の荷動きについては、能登方面で災害復旧に伴う路盤材需要が生じている一方、金沢以南のエリアにおいては大口需要に乏しい状況が続いている。一部のメーカーは工場経費の増加を背景に、2025年3月以降に順次値上げを実施し需要者側との交渉を継続している。新価格は、能登方面を中心に一部浸透しているものの、市況上伸までには至っていない。荷動きの増加に伴い新価格の浸透が進む公算が大きく、先行きは強含みで推移しよう。</p>	(C-40) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡

【価格推移】



品目	4~6月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p>全県、競争激化により下落</p> <p>【新潟県】メーカー側は、生産調整を行う等価格維持に努める動きを見せるも、県内の需要が低迷していることから、販売側は数量志向を強めており、4月にt当たり1,000円の下落となった。以降も需要回復の兆しは見えず、販売側は現行価格の維持が精一杯のもよう。当面、数量志向が強まるとみられ、先行きは弱含みで推移しよう。</p> <p>【富山県・石川県】需要低迷の長期化で販売側の売り腰は弱い。4月にt当たり1,000円下落後も需要回復の兆しは見えず、需要者の指値が厳しい中、販売側は現行水準の維持が精いっぱいといったところ。能登方面の復興需要も未だ引き合いはなく、実需までにはさらに時間を要する見込み。当面、販売側は防戦一方の展開となると見られ、先行き、弱含みの公算が大きい。</p>	(異形棒鋼) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
コンクリート二次製品	<p>新潟で一部製品の価格交渉が進展</p> <p>【新潟県】メーカー側は、骨材や運搬費の上昇を背景に、2024年4月から自由勾配側溝など的一部製品において値上げを実施。引き合いが乏しく交渉に進展はみられなかったが、2025年2月に中堅クラスのメーカーが倒産したことや原材料のセメント価格上昇を背景として採算悪化の危機感を強め、4月以降の新規物件で交渉を本格化。需要者側は、原材料価格の上昇に一定の理解を示したことで、6月に自由勾配側溝の値上げが浸透。その他道路用製品においても、値上げへの理解を得ており、先行き強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】メーカー側は、2024年秋口頃から運搬コストの高騰を背景に一部の製品で値上げを表明。2024年度末の需要が盛り上がりを欠いたため、メーカー側は販売姿勢を引き締め直し、売り腰を強めて交渉に臨んでいる。ボックスカルバート等の一部製品では工事発注の増加に伴い徐々に引き合いが出始め、新価格での交渉が進展しつつある。一方、道路用製品に関しては荷動きが低調で、交渉の本格化にはしばらく時間を要す見通し。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】県内のコン二次需要について、能登方面は災害復旧工事に伴う需要が一部出始めているものの、県内全体としては低調に推移している。こうした中、2025年4月よりメーカー側は2~7%程度の値上げを図るべく需要者側と交渉を展開しているが、昨年に続く値上げに対し、需要者側の抵抗は厳しい状況。原材料のコスト上昇及び能登方面の輸送力低下に伴う運賃コスト上昇を販売価格に転嫁すべく、販売側は交渉を継続する構え。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	(道路用製品) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡
アスファルト合材	<p>現行価格の維持に注力</p> <p>【新潟県】メーカー各社は、骨材・石粉の値上げ要請や出荷量の減少などを理由に、値上げを検討している。一方で、ストアス価格が反落したことから、各社の対応を睨みながら値上げのタイミングを模索している。出荷量の減少に伴い諸経費の負担が増加していることから、需要者側からの指値には応じず、現行価格の維持に注力している。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】メーカー各社は、原材料である石粉の値上がり分について価格転嫁を図りたい意向を示しているものの、ストアス価格は弱含みであることに加え、県内の骨材価格が現行維持の状況であることから、値上げの交渉材料に乏しい状況となっている。販売側は、現行価格維持に注力しながら、引き続き製品価格改定に対する検討を続けていく方針。需要者側は、ストアス価格に先安觀がみられることから、現状は模様眺めのムードが強い。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】能登エリアでは、災害復旧に伴う舗装工事により需要は旺盛。一方、金沢を含む加賀エリアは大型案件に乏しく荷動きは精彩を欠いている。こうした中、能登エリアでは販売側がもう一段の価格引き上げを求め、売り腰を強めている。一方、加賀エリアでは工場により値上げの判断が分かれている状況。需要者側は、昨年に続く値上げに対し、模様眺めの姿勢を示している。目先、横ばいで推移しよう。</p>	(粗粒-20) (新潟) ➡ (富山) ➡ (金沢) ➡

【価格推移】

